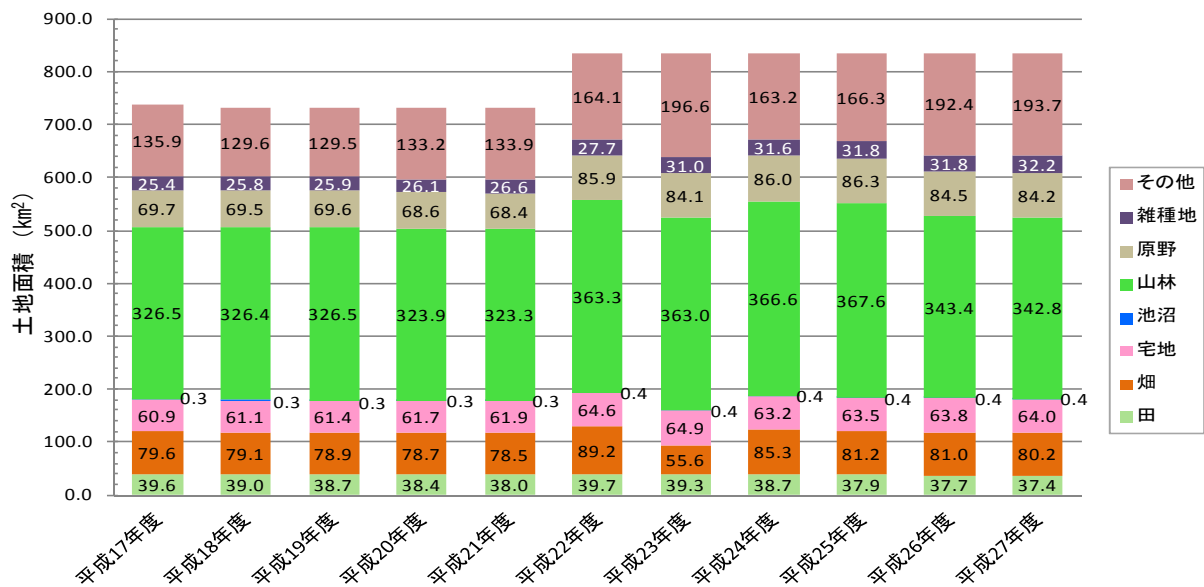


第2章 長野市の現況

1 長野市の社会の概況

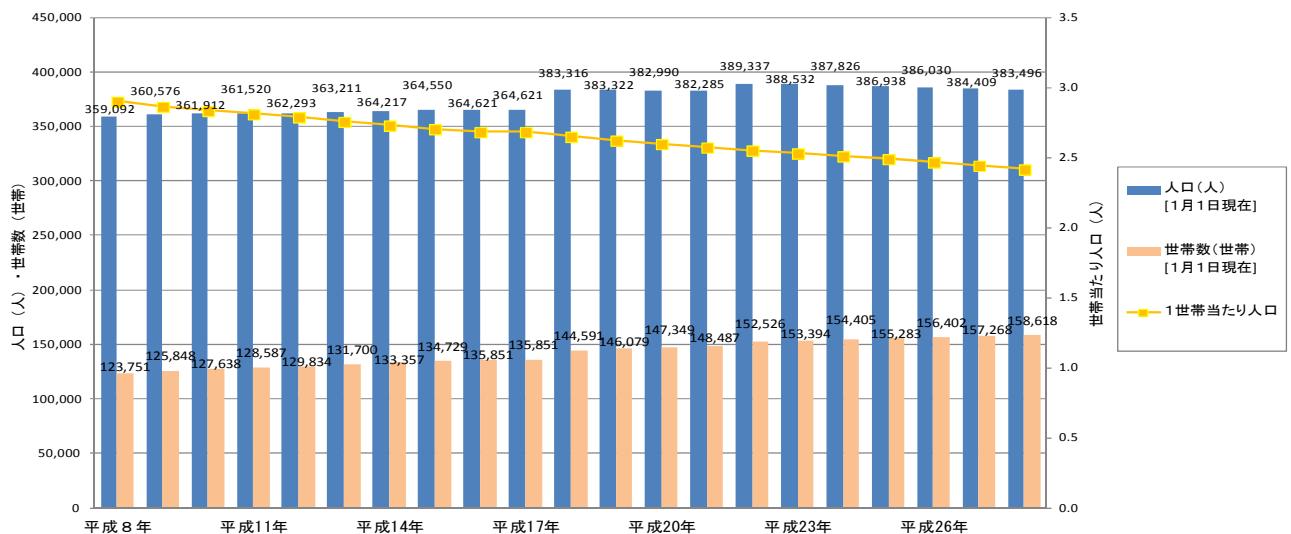
- ・人口は、平成 21 年度に信州新町及び中条村を合併し、一時的に増加しましたが、以降少しずつ減少しています。しかし、世帯数は増加の傾向にあり、一世帯当たりの人口は、減少を続けています。
- ・地目別面積は、平成 21 年度の合併要因を除き、田畑や山林が一貫して減少し、宅地においても、平成 25 年を境に、少しずつ減少しています。
- ・業種別就業人口では、サービス業の就業人口が最も多く、次いで卸売、小売業が多くなります。就業人口全体としては、減少を示す中で、農林漁業と電気・通信・ガス・水道・熱供給業が、わずかに増加しています。
- ・長野市内の自動車保有台数は、約 16.9 万台であり、減少の傾向が見られます。

図 2－1 地目別土地面積の推移

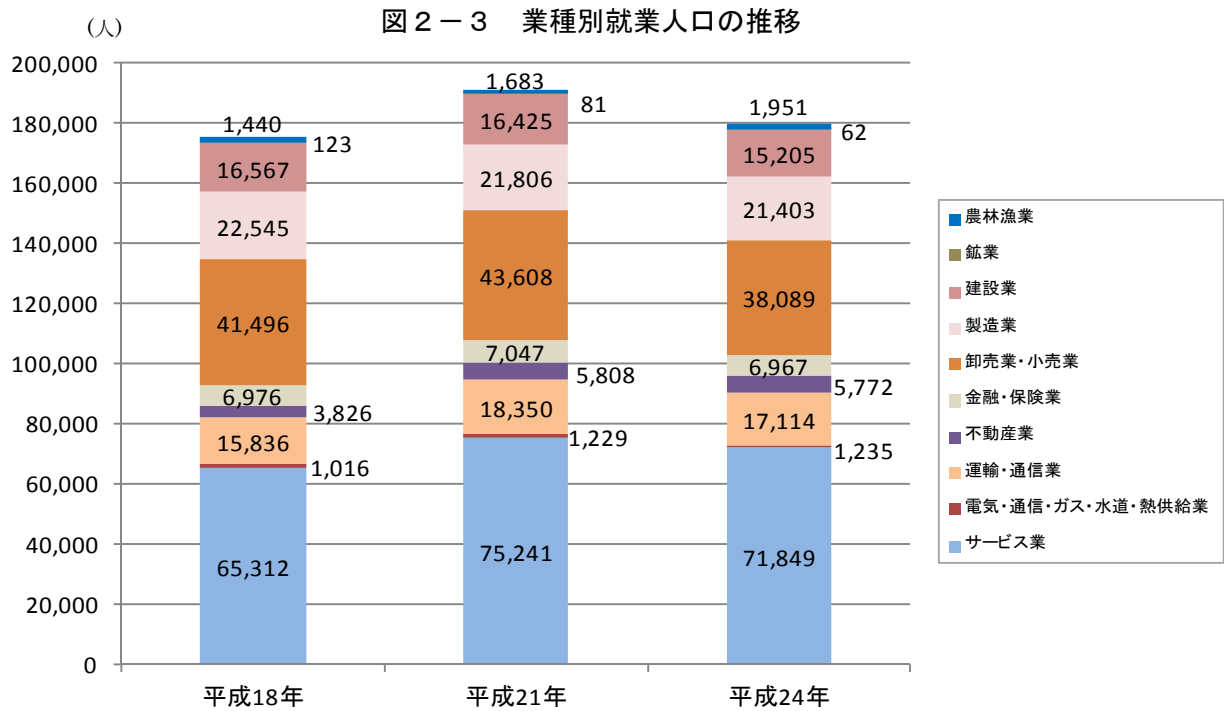


資料）固定資産概要調査（平成 28 年 3 月 長野市資産税課）

図 2－2 人口、世帯数、世帯当たりの人口の推移



資料）平成 28 年統計資料（平成 28 年 1 月 長野市）



※H18の運輸・通信業は、運輸業と情報通信業を合わせた値

※H18のサービス業は、サービス業（他に分類されないもの）、複合サービス事業、教育・学習支援業、医療・福祉、飲食店・宿泊業を合わせた値

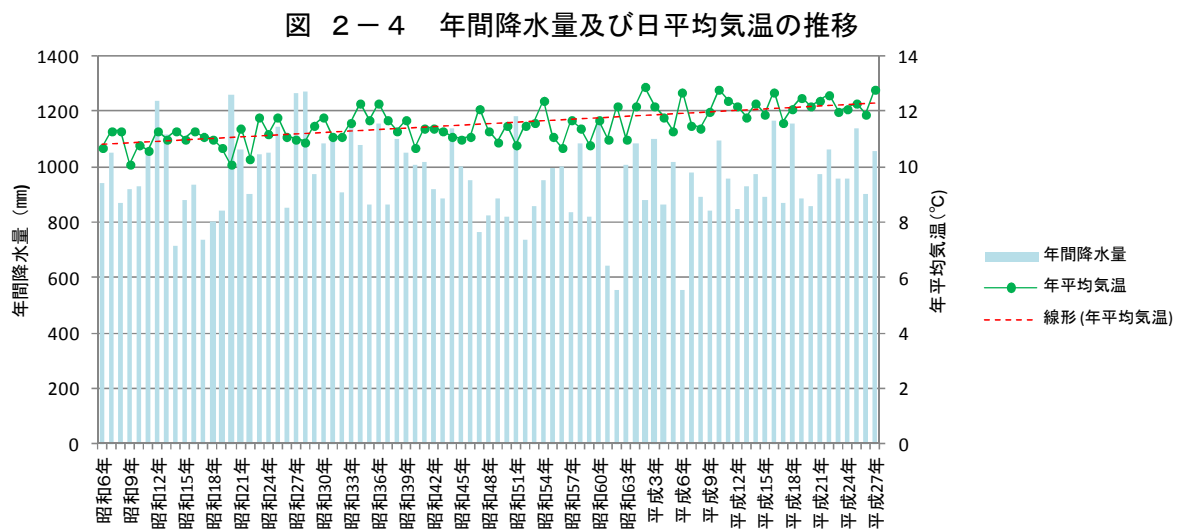
※H21・H24の運輸・通信業は、運輸業・郵便業と情報通信業を合わせた値

※H21・H24のサービス業は、サービス業（他に分類されないもの）、複合サービス事業、医療・福祉、教育・学習支援業、生活関連サービス業・娯楽業、宿泊業・飲食サービス業、学術研究・専門・技術サービス業を合わせた値

資料）長野市の事業所（平成24年事業所・企業統計調査結果報告書）（長野市企画課）

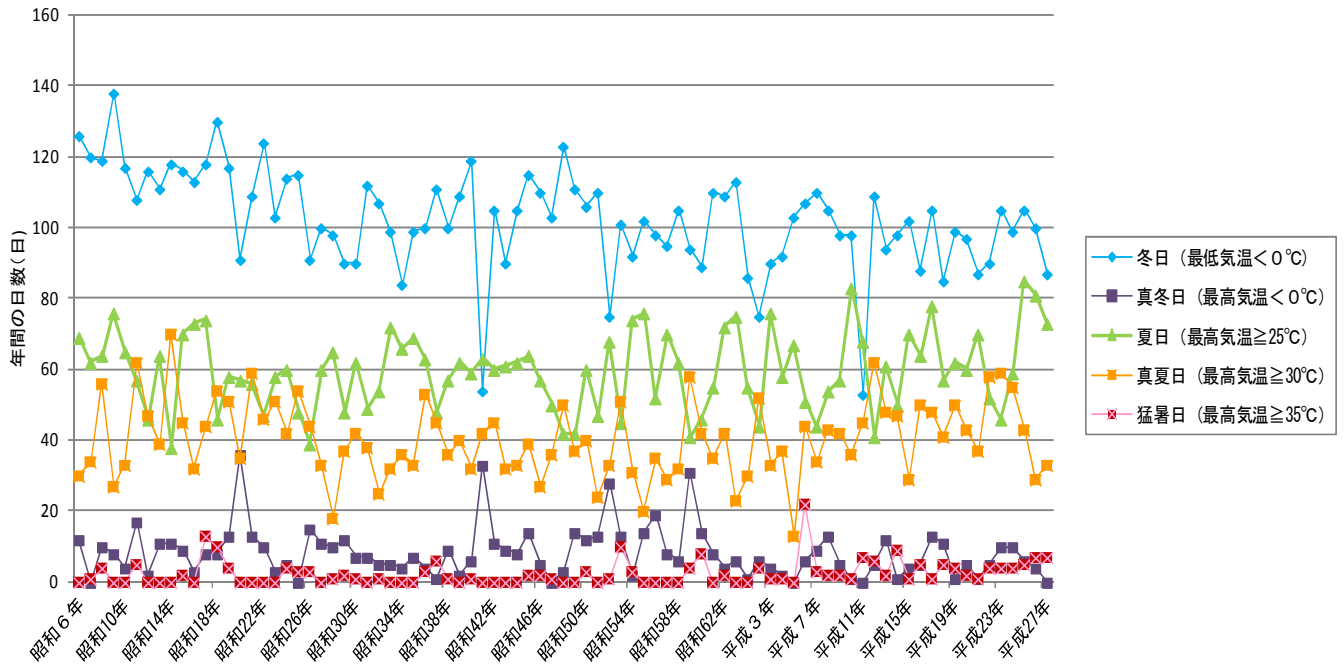
2 長野市の気象の概況

- ・気象庁長野観測所のデータによると、年間降水量は、932.7mm（平年値）、年平均気温は、11.9℃（平年値）です。
- ・年平均気温は、上昇傾向が見られます。
- ・降水量は、長野観測所の平年値（1981～2010）が、933mm、鬼無里観測所が1,681mmとなっており、市内でも地形や標高によって、気象に大きな変化があることが分かります。
- ・長野観測所では、「冬日」（一日の最低気温が0℃未満の日）の観測日数の減少傾向が見られます。



資料）気象庁（長野観測所）

図 2 - 5 長野市内の冬日、夏日等の出現状況



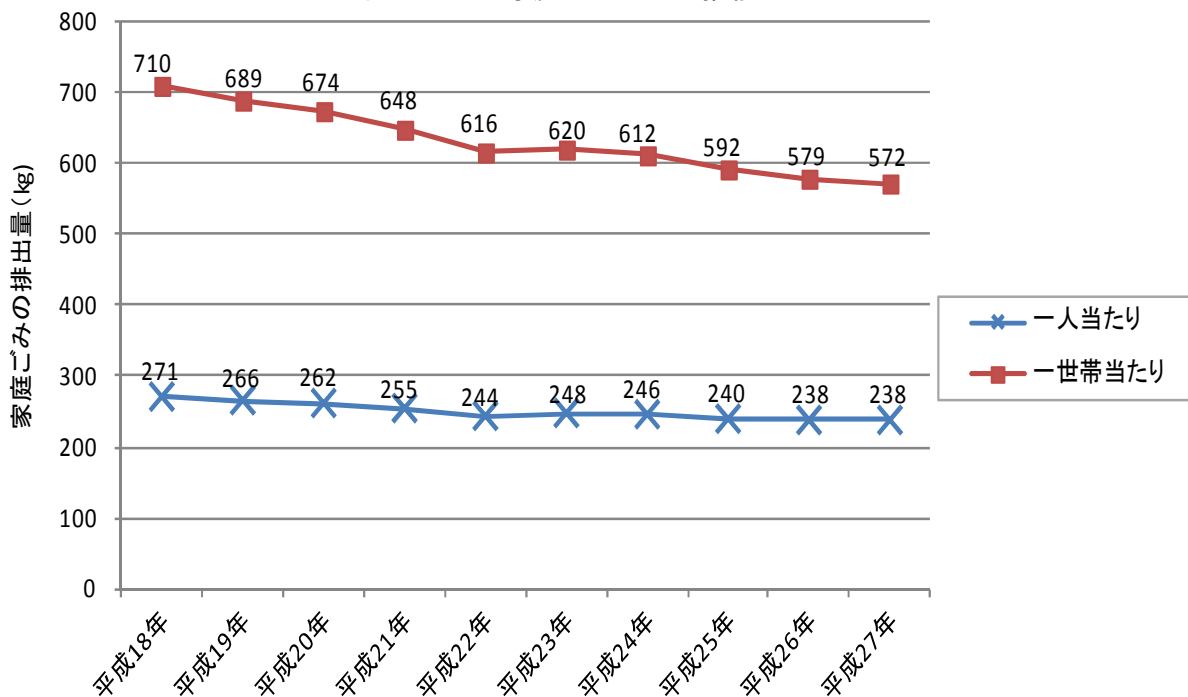
資料) 気象庁 (長野観測所)

3 長野市の環境の現況

(1) 廃棄物の現況

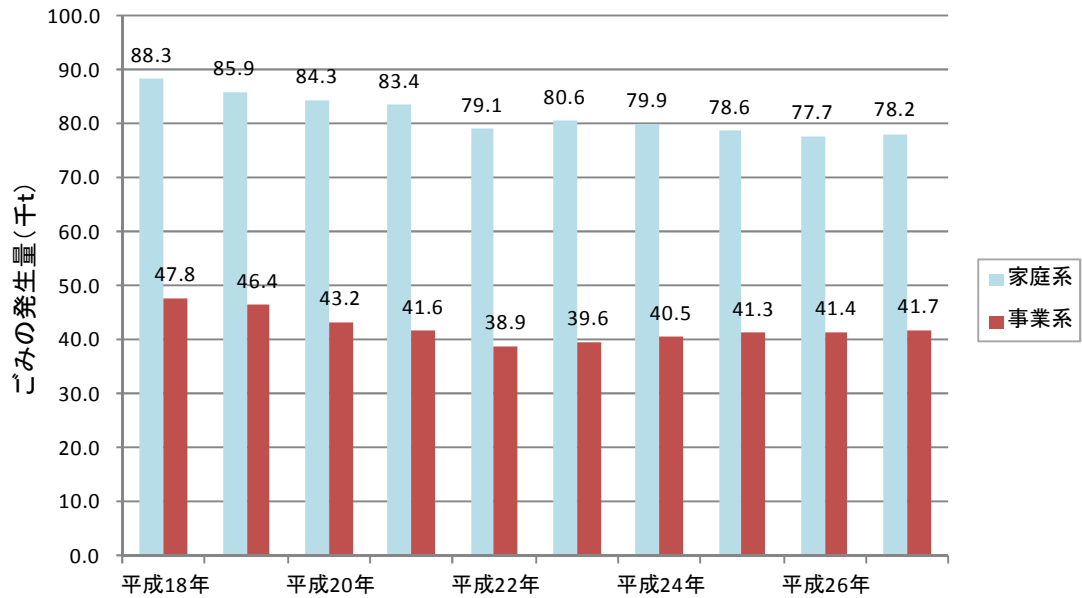
一般廃棄物の排出量 市民一人当たりのごみ排出量は、ほぼ横ばいとなっています。市内全体のごみ発生量は、家庭系が平成 22 年度までは減少傾向であったものの、近年はほぼ横ばいであり、事業系は平成 22 年度以降増加の傾向にあります。

図 2 - 6 家庭ごみの量の推移



資料) 平成 28 年度版環境白書 (長野市環境部)

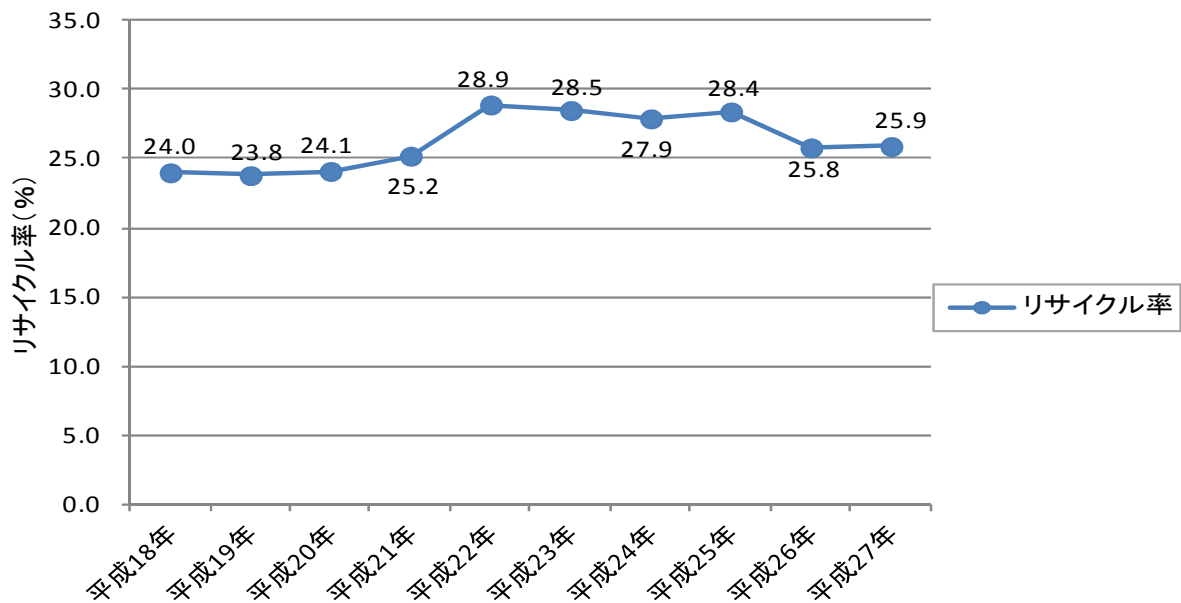
図 2-7 家庭系と事業系ごみの推移



資料) 平成 28 年度版環境白書 (長野市環境部)

再資源化の状況 本市におけるごみの再資源化率（リサイクル率）は、増加から横ばいの傾向にありましたが、平成 26 年に減少に転じました。

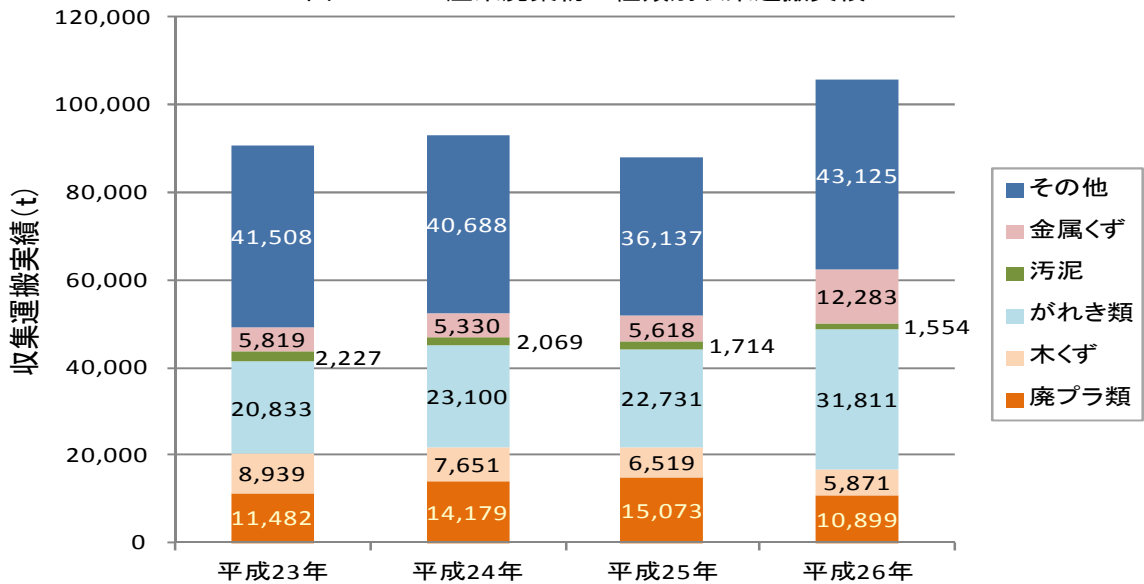
図 2-8 リサイクル率の推移



資料) 平成 28 年度版環境白書 (長野市環境部)

産業廃棄物の処理状況 市内の産業廃棄物は、横ばいの状況にあり、平成26年度は神城断層地震の影響で、増加しています（産業廃棄物収集運搬実績による）。

図 2-9 産業廃棄物の種類別収集運搬実績



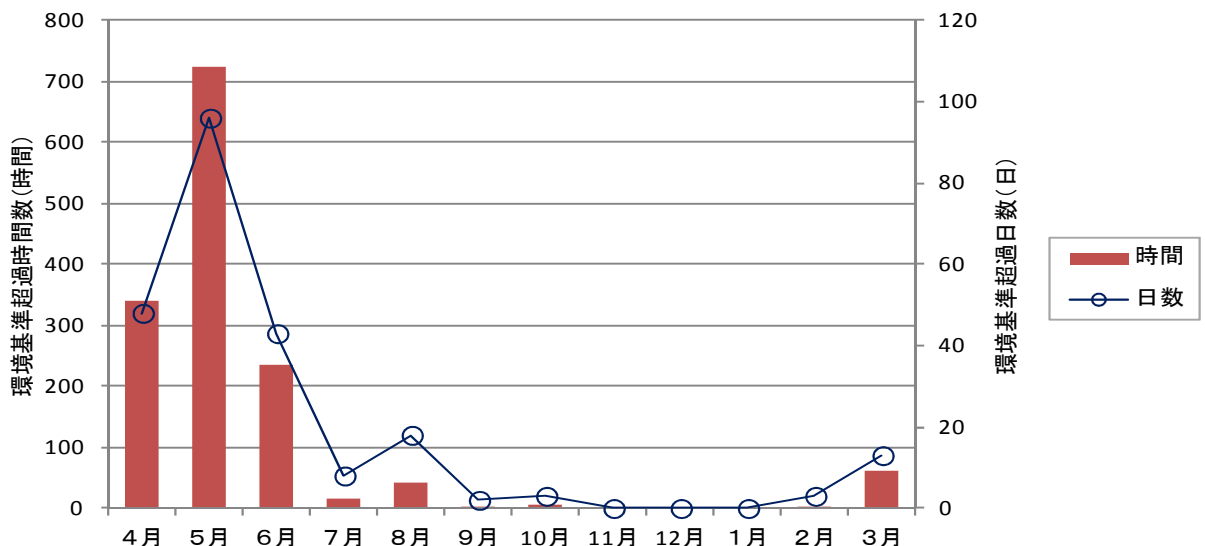
資料) 平成 28 年度版環境白書 (長野市環境部)

不法投棄の状況 平成 27 年度には、市内において 51.8 トンの不法投棄廃棄物 (テレビや冷蔵庫、タイヤ、消火器、バッテリーなど) を回収しました。千曲川・犀川の各所でも不燃ごみや家電の不法投棄が目立ちます。

(2) 生活環境の現況

大気汚染 二酸化硫黄、二酸化窒素、一酸化炭素、浮遊粒子状物質※¹及び微小粒子状物質※²は、環境基準※³を達成しています。光化学オキシダント※⁴のみ環境基準を未達成であり、特に春先から夏季までにその傾向が強くなっています。

図 2-10 月別オキシダントの環境基準超過時間数と日数



※1 浮遊粒子状物質：大気中に浮遊している粒子状物質で、代表的な「大気汚染物質」のひとつ。環境基本法 (平成 5 年) に基づいて定められる環境基準では、粒径 $10\mu\text{m}$ 以下のものと定義しています。

※2 微小粒子状物質：大気中に浮遊している $2.5\mu\text{m}$ ($1\mu\text{m}$ は 1mm の千分の 1) 以下の小さな粒子のことで、従来から環境基準を定めて対策を進めてきた浮遊粒子状物質よりも小さな粒子です。

※3 環境基準：大気の汚染、水質の汚濁、土壌の汚染、騒音等の環境上の条件について、人の健康を保護し、生活環境を保全する上で、維持することが望ましい基準を、行政上の目標値として定めたものです。

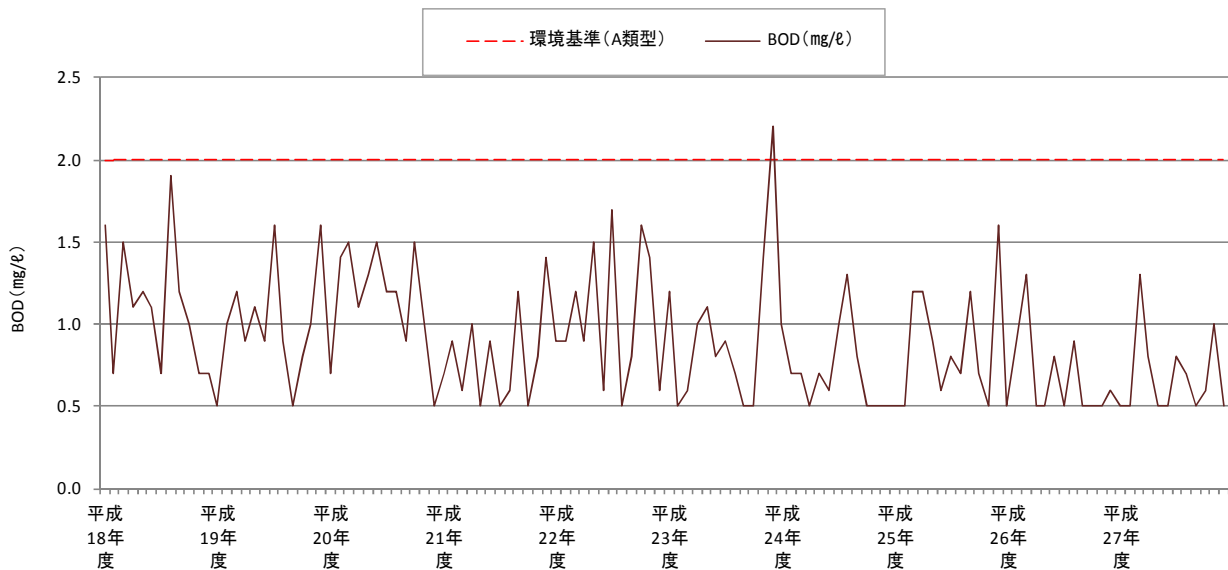
※4 光化学オキシダント：大気中の窒素酸化物や炭化水素が、太陽光線によって複雑な光化学反応を起こして作られるオゾン等の酸化性物質の総称です。

自動車交通騒音 道路沿線の住居等の約97.6%で昼夜ともに環境基準を達成しています(平成 28 年度版環境白書)。

鉄道騒音・振動 北陸新幹線の金沢延伸に伴い、平成 27 年度において 10 地点で調査を行い、2 地点で新幹線鉄道騒音に係る環境基準を超過しています。基準超過に関して東日本旅客鉄道株式会社等に対し対策の要望書を提出しました。残る8地点における騒音・振動は、すべて環境基準又は指針値を達成しています。

河川水質 主要な河川である千曲川、犀川、裾花川及び鳥居川では、大腸菌群数を除く、全ての項目で環境基準(A類型)を達成しています。特に裾花川では、近年、BOD※⁵が大幅に改善しています。市内を流れる中小河川については、BOD が全体的に高い傾向にあります。

図 2-11 裾花川における BOD の測定結果



資料) 平成 28 年度版環境白書 (長野市環境部)

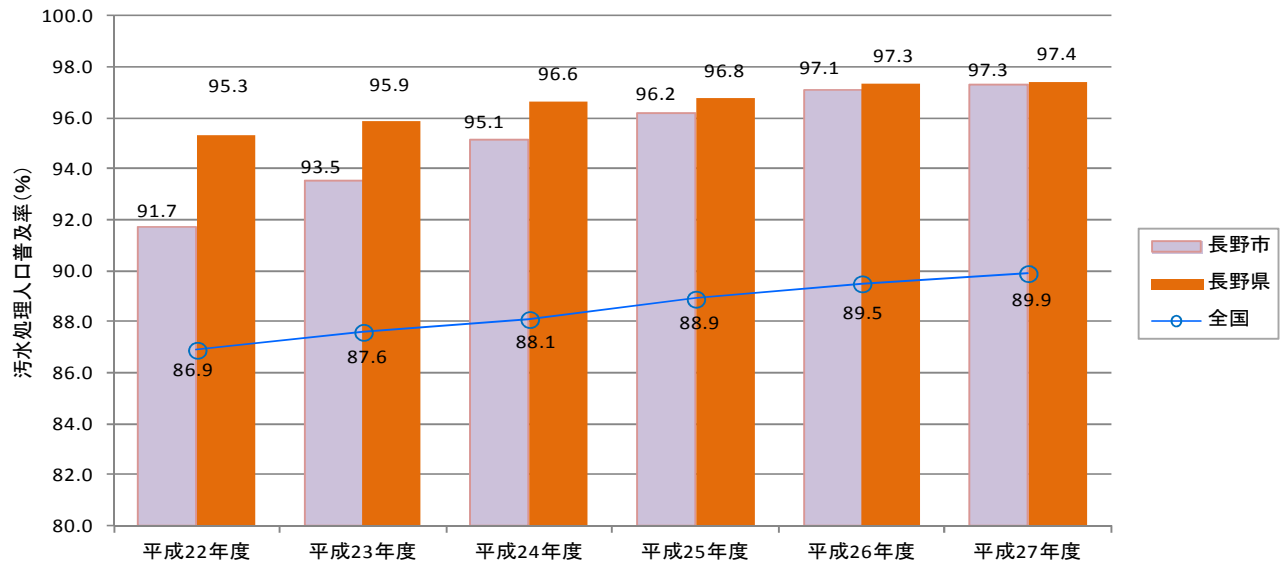
池沼水質 大座法師池では、COD※⁶が環境基準を超えているものの、横ばいの傾向にあり、その他のかんがい池についても、横ばいの傾向にあります。

※5 BOD : (Biochemical Oxygen Demand) 生物化学的酸素要求量の略で、河川水等の汚濁の程度を示す指標として用いられます。水中に含まれている有機物質が微生物によって酸化分解される時 (20℃で5日間) に消費される酸素の量を言い、数値が高いほど有機物の量が多く、汚れが大きいことを示しています。

※6 COD : (Chemical Oxygen Demand) 化学的酸素消費量の略で、水質汚濁の指標の1つとして用いられます。水中に過マンガン酸カリウムや重クロム酸カリ等の酸化剤で酸化される有機物等の物質がどれくらい含まれるかを、消費される酸化剤の量に換算して示した値です。単位はppmまたはmg/l。この値が大きいほど水中の有機物は多いことになり、汚濁の程度も大きい傾向があります。湖沼や海域で環境基準値が定められているほか、工場排水の指標として用いられています。

公共下水道 市内の公共下水道普及率は、93.3%（平成 27 年度末）であり、浄化槽等を加えると 97.3%となっています。

図 2-12 汚水処理人口普及率の推移



資料) 長野市分：長野市下水道 10 年ビジョン（～平成 23 年度）及び第二次長野市環境基本計画指標・目標値達成状況報告

長野県分：(環境部) プレスリリース平成 28 年 9 月 5 日

全 国 分：報道関係資料 国土交通省 処理施設別汚水処理人口普及状況 参考 1

公害等に関する苦情等 平成 27 年度は、96 件であり、大気汚染、騒音、悪臭などが多く、その他には空き地の管理に関するものが 30 件、空き家に関するものが 41 件となっています。

(3) 自然環境の現況

河 川 長野市内を大小多数の河川が流れており、主要な河川としては、千曲川、犀川、裾花川及び鳥居川が流れています。

図 2-13 長野市内の主要な河川



湧水・地形・地質 「大切にしたい長野市の自然」改訂版（平成 25 年 3 月刊行）において、湧水 50 か所及び地形・地質 39 か所を選出しています。

動物・植物 「大切にしたい長野市の自然」改訂版（平成 25 年 3 月刊行）において、哺乳類 16 種、鳥類 68 種、爬虫類・両生類・魚類 37 種、昆虫類・クモ類 91 種、甲殻類・貝類・渦虫類 27 種並びに植物 99 種を選出しています。

自然環境保全の地域 市内では、下表の 8 地域が指定されています。なお、戸隠地区及び大岡地区については、合併に伴う経過措置が適用されています。

表 2－1 長野市内の自然環境保全の地域

根拠法令		指定地域
自然公園法		◎ 妙高戸隠連山国立公園 ◎ 聖山高原県立自然公園
長野県自然環境保全条例	自然環境保全地域	◎ 逆谷地湿原
	郷土環境保全地域	◎ 旭山（市街地周辺の森林） ◎ 川柳将軍塚（郷土的・歴史的地域）
長野市自然環境保全条例 （戸隠村自然環境保全条例） （大岡村観光開発基本条例）		◎ 飯綱高原 ◎ 戸隠地区全域 ◎ 大岡地区全域

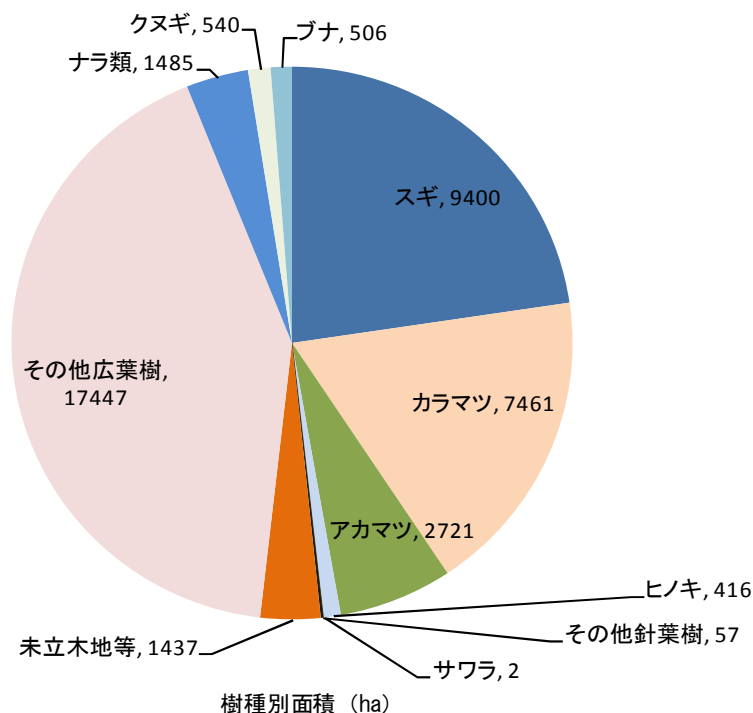
鳥獣保護区 市内では、6 か所 12,413ha が指定されています。

都市のみどり 街路樹は、約 300,000 本（高木・中木：64 種 約 14,000 本、低木：58 種 約 285,000 本）が植栽され、都市公園は、196 か所 287.47ha が整備されています。

農 地 約 4,780ha のうち、田が 29%、畑が 26%、果樹園が 45%となっています。

森 林 市域全体で約 53,000ha の森林が存在し、21%が国有林、79%が民有林（私有林：67%、県有林 3%、市有林 7%他）となっています。また、民有林に占める人工林の割合は約 44%にのぼり、主要な樹種としては、スギ、カラマツ、アカマツとなっています。

図 2－14 長野市内の民有林の樹種構成

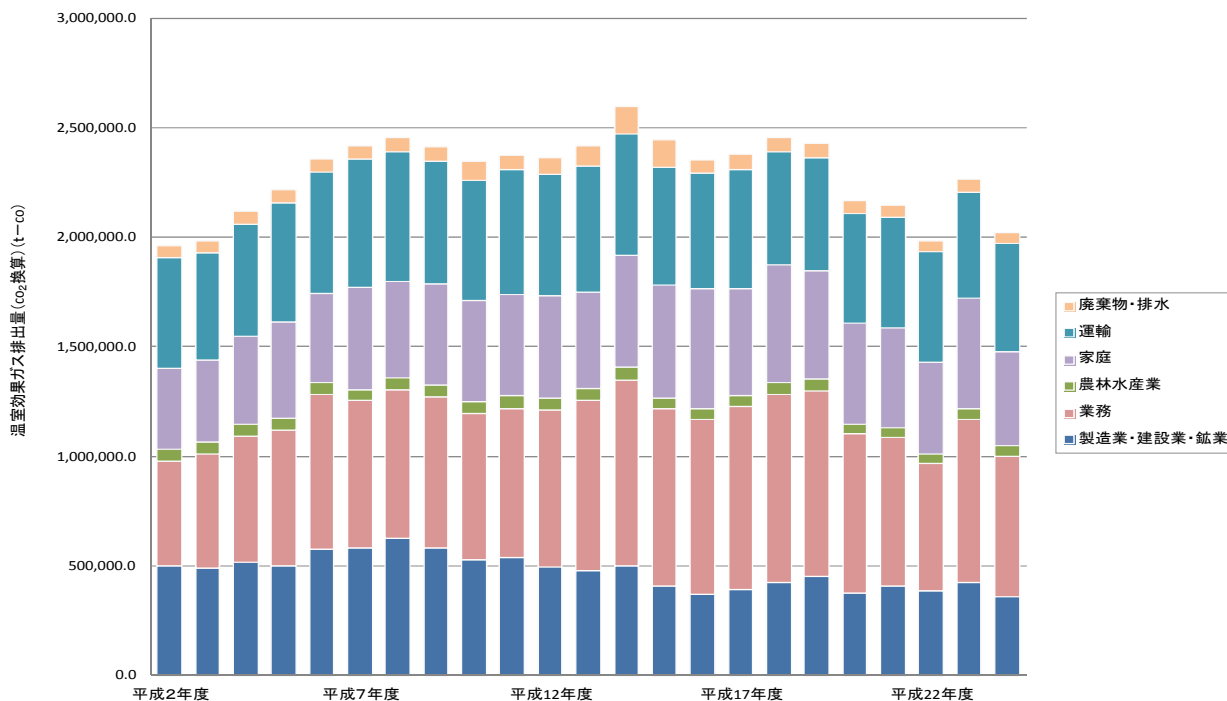


資料）長野市森林整備課調べ

(4) 温室効果ガス※⁷排出量の現況

平成 24 (2012) 年度の長野市域における温室効果ガス排出量 (CO₂換算) は、2,024,120 トンと推計され、前年度と比較し、10.6%減少しています。現行の基準年である平成 17(2005) 年度の 2,377,722 トンから 14.9%減少しています。

図 2-15 長野市の温室効果ガス排出量の推移



資料) 長野市環境政策課地球温暖化対策室調べ

表 2-2 長野市の温室効果ガス排出量の推移

温室効果ガス排出量<CO₂換算>

年度	1990年度	1991年度	1992年度	1993年度	1994年度	1995年度
	平成 2 年度	平成 3 年度	平成 4 年度	平成 5 年度	平成 6 年度	平成 7 年度
温室効果ガス排出量 (t)	1,961,265	1,983,939	2,119,531	2,216,407	2,357,823	2,416,565
年度	1996年度	1997年度	1998年度	1999年度	2000年度	2001年度
	平成 8 年度	平成 9 年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度
温室効果ガス排出量 (t)	2,454,095	2,413,355	2,349,206	2,374,833	2,363,360	2,418,619
年度	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度
	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度
温室効果ガス排出量 (t)	2,597,236	2,446,775	2,354,069	2,377,722	2,457,019	2,425,587
年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	
	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
温室効果ガス排出量 (t)	2,167,869	2,148,152	1,984,559	2,264,240	2,024,120	

資料) 長野市環境政策課地球温暖化対策室調べ

※⁷ 温室効果ガス：太陽光線によって暖められた地表面から放射される赤外線を吸収して大気を暖め、一部の熱を再放出して地表面の温度を高める効果を持つガスをいいます。温室効果ガスには二酸化炭素、メタン、一酸化二窒素、フロンガス等があります。

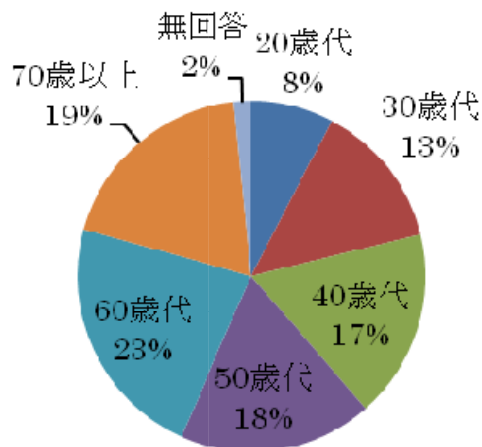
4 市民の環境に対する意識

本計画を策定するにあたり、市民の皆様のご意見を反映すべく、以下に示しますとおり、環境に関するアンケートを実施しました。

(1) アンケートの実施概要

実施期間	平成 27 年 10 月 23 日から 11 月 6 日まで
調査対象	20 歳以上の市民 5,000 人（無作為に抽出）
回収状況	3,169 サンプル（63.4%）
回答者の属性	年齢構成 20 歳代：8%、30 歳代～50 歳代：48%、60 歳代～：42%、 職業 専業主婦・主夫が最も多く（20.2%）、次いで無職（13.8%）、パート・アルバイト（13.6%）、その他 4.2%

図 2-16 回答者の年齢構成



(2) 結果概要

現況の環境に対する満足度

- ・ 全ての環境項目において、半数近くの回答者が「満足」または「ほぼ満足」と感じています。
- ・ 「市街地や住宅地の景観」が他の項目に比べてやや満足度が低くなっています。
- ・ 平成 7 年度以降、ほとんどの項目で、一貫して満足度が増加又は高い水準でほぼ横ばいに推移しています。

図 2-17 環境に対する満足度

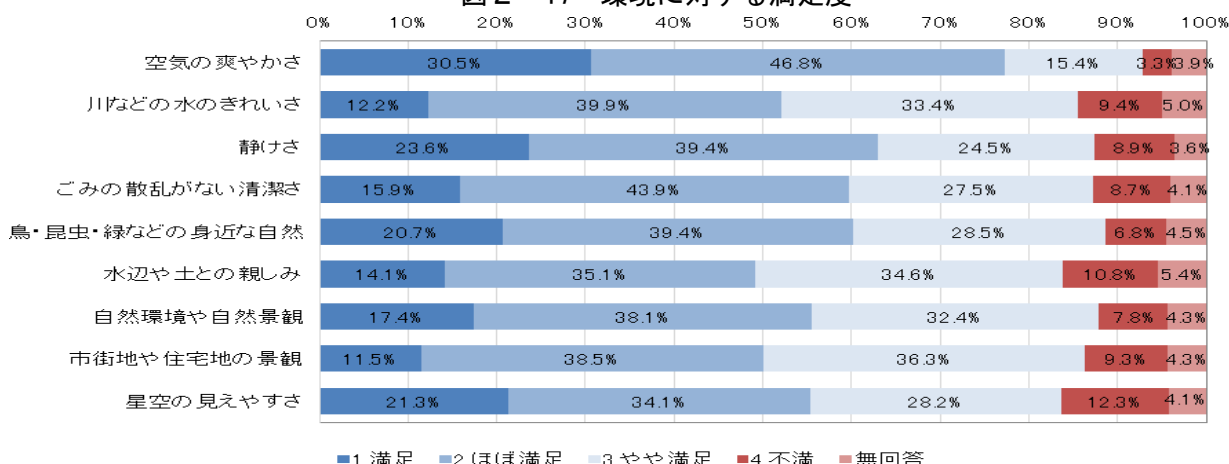
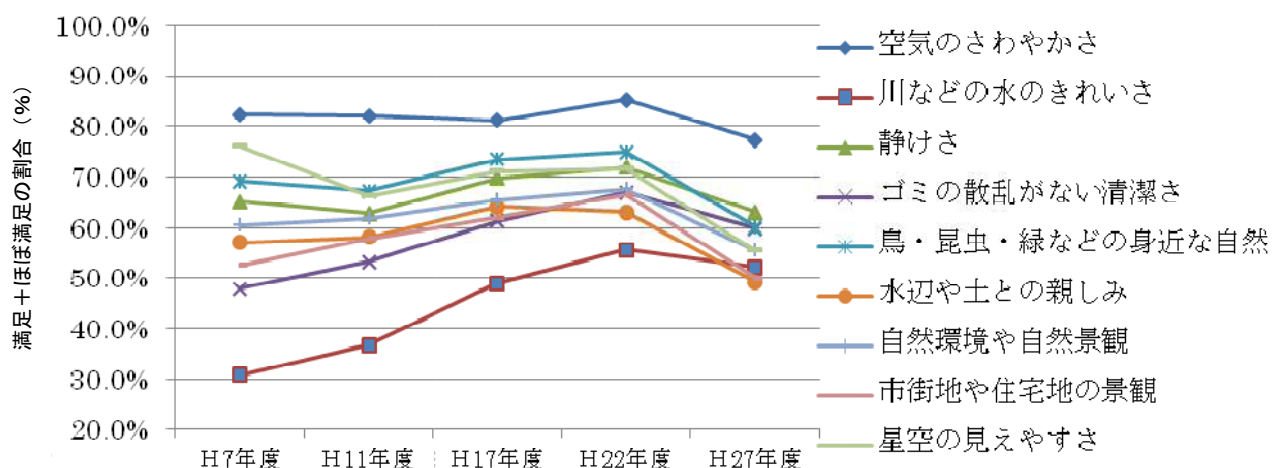


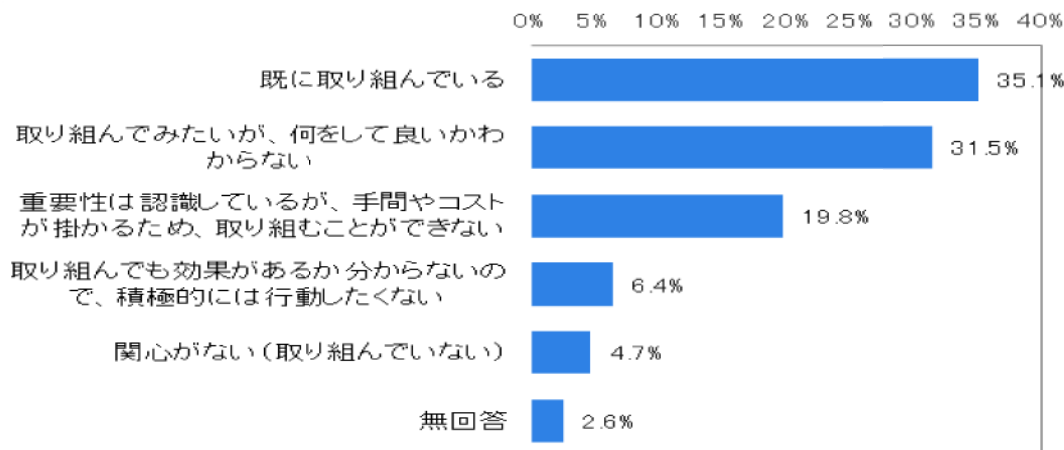
図 2-18 環境に対する満足度の経年変化



取組状況 地球温暖化対策に取り組んでいる家庭は、3分の1を超えています。

取組内容 「照明やテレビを小まめに消す」や「冷暖房の温度設定」、「エコドライブの実践」などの比較的簡単な取組については、非常に高い取組率となっています。一方で、「自転車利用」、「公共交通機関の利用」など、ある程度の労力や我慢が必要となる取組は、低い取組率（30%以下）であり、継続して推進を図る必要があります。

図2-19 市民の地球温暖化対策への取組状況



市民が今後重要と考える取組

- ・「地球温暖化への取組」（26.5%）が最も多い回答となりました。
- ・次いで、「ごみのポイ捨て・不法投棄の防止」（26.3%）と選択した市民が多く、「身近なみどり（農地・樹木）の保全」（20.0%）、「街並みや道路沿道の緑化の推進」（19.0%）、「公園緑地の整備」（18.1%）という都市の緑に関連する項目が上位を占めました。

図2-20 市民が今後重要と考える取組

